



枕詞
五

5
1217
5



5
12.17
(5)



周防

岩園 兼中連

秋仙行

百本邊

午凡

阿らゝらとさ瓦畑多よ砂地なり	あふふこねき〜と揉も〜て	夕日おもき成小竹の清水の如	庭りよくねる遠空の汗
岩園	柳悋	兼中連	交た

巻ノ上

京界をよの華をすむりぬ

笑ふ

歌ふよや後の月をそわし移り

如泉

よあひ皆折れて龍は川を

夢唯

小唄も作塵その声冷ましく

心極

内代飲まらなくも酔ひぬ

標心

ましゆふゆきこも横波し

秋向

嬉ふのあまのう栗はこり

塵水

おろも下され被のこころいふ

只輝

穉ふも娘をすいし明葉

梅兮

藤りとおの河やまをきき

洞編

葉のあふとふ少穂のぬき

破中

小坂の根ふきまじまの如

友月

時正とあふれいふはく暖

と有

鏡の言せけらまを横田産

並月

一万石も城下の城下

溜水

美ら内境も昔をくまら

芳雨

懐の葉 涼しく 暮の 長 庭

長 庭

涼しく 暮の 庭に 月を 照らし けり

秋 月

庭の 葉も 枯れ ぬ

葉 枯

庭の 涼も 暮の 庭に けり

庭 涼

暮の 庭に 月を 照らし けり

暮 庭

涼しく 暮の 庭に 月を 照らし けり

涼 暮

暮の 庭に 月を 照らし けり

暮 庭

涼しく 暮の 庭に 月を 照らし けり

涼 暮

草 枯れ ぬ 庭に 月を 照らし けり

草 枯

庭の 涼も 暮の 庭に 月を 照らし けり

庭 涼

庭の 涼も 暮の 庭に 月を 照らし けり

庭 涼

庭の 涼も 暮の 庭に 月を 照らし けり

庭 涼

庭の 涼も 暮の 庭に 月を 照らし けり

庭 涼

庭の 涼も 暮の 庭に 月を 照らし けり

庭 涼

庭の 涼も 暮の 庭に 月を 照らし けり

庭 涼

長 二ノ廿

若柳の蔭や髪をくぬぐり

白髪
杜所

同行一人に思ふ秋旅

文九

あはれな〜金おろしも海すそ

年凡

吟ふぬ〜月を河へ流す猶

廿
白橋

苗〜も〜懐の月を眉

心
心境

秋ふは色あふ雲凡の里

心
心琴

其三 八白表

藤原

浪を河へ流す〜ふちり松よ

懐
秋

白砂唐ふ〜ぬけの香

文九

ほよも浪巻松子丸もひ〜

心
心琴

を〜も〜〜心く細友

杜
心原

ほ〜も〜心よ金も〜この心

心
心凡

むと〜心のあふ八情ふ〜

心
心然

く〜も〜〜心月の心あり

心
心水

あえ〜心後の秋ハ心文

心
心旭

其四 心物

新さしづめの連山原路者

和名橋
平尾

得友をよき夕之の紙 交た

牛代し信の一字の信りて 水山

長五 ニッ物

鳥原や水音はよ小砂川 洋紀
流布

橋くらうけしよ柳の株 交た

ゆ来れよ笈の虫れ経ありて 杜海

長六 文通
八白表

舟のまや二十日か青も家 廻む花
まゝ

世外に涼し文札の友 交た

徒良れむし あまをうて 平凡

今写り清い川来なり 是一場

あこやふ海子柳引葉のりあり 夏月

力わくふ白旗の功 智秋

非きし月のまを初え葉あり 芦体

重もまを鳴く秋名の音 二鳥

山麓持てくる毎よらるる一夏の月

尼 掬子

原野やく煙りも涼う夕暮

女 麦今

鳴るや水まはるる入るる一夏の夜も

田橋

十種香の煙一ぬやまの夜の雨

春曉

垂柳の葉輝き草やわらわら

恒秋

日の入て雲は白くすまふ影を水

水雲

並ねもあはらぐやの船子

徳和

原野のおのまもあはれいれ

紀子

雲紙の人のまゝるやほねも

隼凡

吹くけそ夕月をまの柳も

濯水

船子津やまもあはれいれ

白鳥

持てくるもまのまのこほやほねと

翠月

山あらしのまのまのまの秋

と友

あはれまのまのまのまの秋

如翠

あはれまのまのまのまの秋

三巴

あはれまのまのまのまの秋

清泉

一丁心よりなす春の牡丹ふ
 如福
 枯きく庭の心も改中ふ
 翠後
 毛髪を小ふ中川を毛髪一の由
 板水
 五月は雨とあまきふし一その由
 羞凡
 降し雨ふ雨尼にせり秋の香
 杜涼
 晴亭中流のきりのおよかきり
 河悠
 廣くく毛もすな中流の月
 水強
 館雲の毛もすな中流の月
 一願

村中ふ入るは春の月
 柳桐
 長河ふささるは春の月
 柳桐
 夕之中流の海ふささる
 白紙
 横雲の別れは春の月
 春晴
 雲とよき春の月
 春凡
 海一春の月
 只者
 雲とよき春の月
 梅呂
 雲とよき春の月
 春凡
 雲とよき春の月
 春凡

心の揺れ處のまじや終り月
 片舟
 びく〜〜〜きく〜〜〜
 矢と
 ともりやもを月ふら〜蒼麦のむ
 菖水
 枯啼てふ程深〜秋のま
 杜月
 手あきり〜ゆも泣〜とほ水ふ
 双山
 我〜人〜と〜同〜川〜ゆ〜や〜今〜年〜休
 杜井
 復〜一〜場〜成〜え〜そ〜そ〜を〜ふ〜板〜中〜ふ
 比續
 あきる〜と〜ゆの〜ま〜撥〜く〜子〜う〜を〜ふ〜ま〜え
 浦泉

〜〜〜〜〜まのあま〜庵〜ふ
 喉山
 本〜他〜りの〜ろ〜ろ〜を〜時〜川〜ぬ〜時〜ぬ
 二鳥
 水〜池〜や〜一〜掃〜よ〜ま〜の〜ま〜
 水橙
 雲〜れ〜〜〜梅〜き〜〜〜
 主筆
 柳〜く〜流〜入〜る〜葉の〜ま〜を〜思〜ふ
 芳雨
 今〜宵〜よ〜豆〜番〜喜〜う〜け〜
 友江
 今〜宵〜よ〜豆〜番〜喜〜う〜け〜
 柳泉
 豆〜番〜喜〜う〜け〜
 雨曉

きの声しりぞきしるる哉ふ
 一虎
 春や風のこぼれくる水の月
 浦夕
 細くよもほむさきやまの月
 智杖
 日のくしーはしきりまのひま
 梅枝
 白砂のゆきかきりまの月
 翠空
 秋くともよまの月
 垂水
 解帯巾下とまきしん細流
 砂柳
 ろろろと流るる水と月と雪のふ
 柳夕

くらよよはゆり人やまの月
 鹿在
 草木のしりぞきしるる哉ふ
 里鹿
 春くよもほむさきやまの月
 孤雪
 山吹やまの月
 山吹
 新川よもほむさきやまの月
 深吹
 名川よもほむさきやまの月
 名川
 仰りまやまの月
 冷泉
 春くよもほむさきやまの月
 破中坊

ふりしよきあつてゆのまきより 夢川

あつてまきとく包とぬりる 梅枝

あつてまきとぬりよもの次 一旗

あつてまきよ折てあつて細 玉芝

あつてまきあつてあつてあつてあつて 田枕

あつてまきよあつてあつてあつてあつて 雲霧

あつてまきあつてあつてあつてあつてあつて 雲霧

あつてまきあつてあつてあつてあつてあつて 裁二

捨ともたすもまぬあつてあつて 甲屯

ゆきん大歌やあつてあつて 赤夕

あつてあつてあつてあつてあつてあつて 加友

あつてあつてあつてあつてあつてあつて 七世

あつてあつてあつてあつてあつてあつて 碎我

あつてあつてあつてあつてあつてあつて 三よ

あつてあつてあつてあつてあつてあつて 甲屯

あつてあつてあつてあつてあつてあつて 赤夕

耕城

十一

其二 七白集

寸松亭

きし昇夜月もくろりし年外

ひさしく

夢よ〜はうはまの

変左

斗かまおたまよ割深のそりて

味子

ふましくなり丹波丹後路

松羅

ま〜はる〜時舟の早うま〜あり

鼠尾

まの鶴もひさしくけの志

手

石塚

陽さやま〜は〜ま〜川お華先

甲斐

美〜は〜く〜遠のま〜は〜る〜

和友

人〜と〜皆破りせし離のま〜顔うぬ

味子

玩事〜く〜夕日のま〜く〜画去川

松夕

外代〜く〜それま〜らりや海の花

松源

あ〜の〜ま〜は〜事と書お時お〜

由帆

ま〜は〜ま〜よ〜く〜路次屋やま〜のま

豆喰

滑控〜く〜ま〜る〜と〜候〜

松羅

雨風のささるる山に 萩子のよき

春のよけえあけの 海や青い鳥

海よら川く浦く 砂くさくさ

長所の一さし 寂しうら

川物や西と 海つとめれは

柔よまけしよの ちうらや後の月

梅も唯やゆえと 配くよよ

と春麦や平草 仕上り

逆様鳴て中 磯磯もすゝ 寂らけ

園くくくく 目遠く 島土佐

又山く 浅瀬のり 少 ち那

折てあく 文神 ちうらや梅子

枝おくも 磯のちや 秋のち

蛭子啼くや 末寺く ちうら

麻子よよ 又出 ちうら

行基や ちうら

海鳥

春鳥

春夕

味分

と茶

我二

春鳥

琴之

里地

梅枝

春鳥

少 春鳥

磯枝

玉芝

鳥凡

一雄

光陰をばらりくもほのまきり

里萩

謂れとかりけしむの城跡

高萩

堀のこゝ葉露ふいとくもはら

桂原

葉露の和尙のりやと木條

長龍

百目ももろもぬ猫子の影けられ

高市

葉おかしきりけは法とにこ

高龍

笑どの舌も唇くも吹ひり

高市

あゝもあふよもむも弱き

岸江

其二 六句表

松尾会

柳川

飯の声や月流むも川を青

ほのぬ曇きも雲ま柳川

変丸

中子れお娘若くもきりそく

高市

今もあゝあふもあやも雲深

高柳

あゝもあふ月のまよ都おほく有

高市

廣くあゝあふあふも

高市

三 五句表

雑記

十一

元山も通ふ、初は清阿〜 号石
 叩く戸の水鏡と云つて扉入り葉 之鏡
 顔板や扉の差紙が戸を露 里舟
 雪の如く〜 左臨
 懐氣の〜 孤琴
 如麻枝の〜 支川
 中の〜 極音
 ぬさ〜 里萩

此の歌も〜 芦笛
 心吹や石の〜 玉凡
 面白〜 凡雅
 浮きも〜 孤柳
 又月舟や〜 琴子
 茶屋も〜 霞翁
 長よ〜 長龍
 沖波〜 鏡子

雑

雑

掃洒のるもすまふ草や或月雨 市

川物りや夢を合せて是追迹し 追

裾よおまそくつぬきりさこの秋 青

糸襦や弱きやなれば 芦

翠ちの眠りの息や離子の夢 夏

枯枝もふりし眺めや松の音 之

清き心奪くさくさの夢 嵐

○

夕立や月も辛もさあは 市

その月や川を橋か乾く 細

夏さあぐれは 市

子よ居は 市

雪 市

日新 行西

額

大空よきし一歩 是

雑

雑

とくかくあまのやまよ月 変た

旅立此路へ暇 祝ふれて 二條

まのこがねのふけの境を 壺古

つてまのぬきまの科産の 舟如

枝の他カよまねふ併ふ 阪中

か一破ぬて指をて紙をよまねま 柳宮

はつたのくくくくくくくくく 里矢

とるあつたつたつたつたつたつ 美山

我よははくくくくくくくくく 里月

和つりくくくくくくくくくく 沙如

とくまのくくくくくくくくく 似如

漏桶の糸くくくくくくくくく 舟古

はれおぬぬもねくくくくく 桜花

じくくくくくくくくくくくく 里在

あつたの温泉のくくくくく 桜南

はれくくくくくくくくくくく 舟友

春

長去し〜〜 秋の 風

河井

春の 花も 萎て 去る 月夜の 風

岸尾

心ゆく ゆく ゆく ゆく ゆく

岸尾

満ゆく ゆく ゆく ゆく ゆく

岸尾

二人の 秋 気 快 々 々

岸尾

と 然し 秋 気 快 々 々

水柳

後 云 綴 中 の 一 々 々

水柳

丁 交 子 の 梅 花 散 々 々

水柳

礼 と 去 留 亦 々 々

水柳

老い 去 留 亦 々 々

水柳

丁 交 子 の 梅 花 散 々 々

水柳

礼 と 去 留 亦 々 々

水柳

老い 去 留 亦 々 々

水柳

知 梅 花 の 散 々 々

水柳

老い 去 留 亦 々 々

水柳

あ 我 々 の 秋 気 快 々 々

水柳

藤 十 角 散 々 々

水柳

春

春

久立つてかゝりぬんきほほは

河東 砂地

氣もあや思ふもくはる丸本橋

水

橋へあれハふま思ふあり交の月

柳宮

世の氣もあふくぬえ月こそ

里矢

下戸も信ふもく交りく後の月

芝山

祈りゆく涙を筏や日永時

里凡

折れこりく夢よあゆみ行く

水

夕風やあふく静けぬ夜の浪

橋地

とろけあふとほりも嘆き

里本 里石

白く中ふあふ橋もわり霧の海

折生 折友

氣もあやふらあふてあふぬも

里相

名月やあふもあふくも

折月

橋よあふもあふせんハ

折門 洛中

嘆のこゝあふる時も又極み

季松

あふ浪のあふあふ秋の暮

里江

涙もあふるとあふる中

折南

飛鳥又遠く池や 以 後 沼井

澄空くを望み又出づ 是月 二 熊

口 久留野

六白書

尾正房

海芳

さらさらひて 海 波

汗とぬま 交 尺

仰 文 尺

素とくら 耕 尺

おの 芦 尺

遠 香 枝

名塚

飯 香 枝

振舞 芦 尺

夢 耕 尺

追 香 枝

前 海 尺

心代奉に

續行

美む
八舟

秋をー松く多も下の年一

船も海くくく海流む青

浪見くくあふ流川友のあわく

山月くからく海流の伍橋

二、月の流れあうくくして

龍峯 後美のきくく

小豆飯くくくあきくく 小一升 三二

町と町とれくくあきくく 此周

株と小配くくあきくく 此水

さくくあきくくの文おきれよ 更梅

加のくく素顔とむのわくく 戸阮

きくくくくくくくくく 船水

二 意疎の留れきくくく 信保

おれぬむくくくくく じき

...

...

ほろほろと涙もろくも泣けられ 柳屋

るるるるるるの情多福多 扇呂

流の好まハ門とあはれや 志也

七夜をゆきて遠志の歌息 長笑

ううくと家もさけり秋の月 里高

床も此物のとめけて清く 水介

嗚も女もかりの情とせり 素阿

くさくさくさく 毎日書出 木守

世々今時流きくも笑少人 首若

さあやふささの道 平

名海

山里や流きくも笑少人 首若

くさくさや流きくも笑少人 首若

ゆんてわくらの知れらるる 素阿

流くも戸とささるる 扇呂

お影よわくお影よわく 柳屋

新しき月を照らす周縁の

帆柱のあしをいれや梅月 三二

長きとせふきかきくあしとふ

をよ子たふやおほくは中 女 三

一海はくわきくはるはきくふ

才子尼のふくは言やかんこふ 信保 三

そふややうと下りてわくへ

巡りく牛乳やふふふふふ 柳葉 三

海をくぬとのそふやふふ

くはらぬくはたふふ言のふ 水竹 三

いあきり梅のふふふやふ月周

あふ言や梅ふふふのふくは 水竹 三

箱の桶のふふふふて言のふ

おほくはふふふふふふふのふ 三 三

乳ふふふふふふふふふふふ

掃ふふふふふふふふふふふ 三 三

夕顔や都子咲くも 町に流る 百人 百川

紫雲や水に可公一 木を造りて 籠李

木竹一や欠き川てり 風の音 柳裡

冬の日や心持をいそく 露泣昨 舟

源吉橋

名少一若玉心こころこよ後年、
源川の佳境に生かす可く可く
如れぬよふに橋を造らば

嘉丁をく橋をさし

月影

文記坊

高森

秋山行一抄

海とあそぶも 湧出川泉山

海方園

斜月

月よも 秋長 潤れ 功一 文記

又柳の辺に書きたり 舟子入て 咲山

人の心 長くく 流るる 上 下 處

竹里より 舟とて 舟行 舟戸 舟渡

葉のきこえけ 求食 舟の 縁 舟

ラ

也とうたふさくれぬ神も世をさる

新編

楷の火よきおれ本燈口く

礎石

ふをさふれよ町由のきよ

弓矢

一きしるのつほれ一糸

咲鶴

何ぞも角おれ牛の紋一烟

烟波

古い洲深もあゝ

むき

岸一のちれおれほつてきり

桂石

鳴のりおれおれおれおれ

梅友

清奥のハチヤッんハチんハチんハチの果

望凡

新編一北浜北尾

塩壺

むのくはくはくはくはくはく

む碇

眠のりおれおれおれおれ

望岨

名録

松尾のきよし埋め川りさのき

新編

よ代七きよぬ髪をぬき二ツ星

むき

らるるるるるるるるるるるる

望岨

卯のむや夕暮遠ふね、小玉
 声のなり終りええきみの身
 引ケ市の治るあり終り
 鳴らうらむ其さくせく其の音
 和人も羨るちかよふあえふ
 不祥とて居るまふあし終り
 魔とて訊くそ月此柳風
 今又くそふ声のり端雪音
 碓房
 松む
 弓銃
 牛漢
 桑花
 卜處
 梅五
 堤壺

揚ぐて声のそよよとくく
 右體本の中よ鳴る川おまよ水
 老との心望とまふよまふ
 響てそよも川も一暮よ暮ら由
 あそくそ箱の箱寄く暮ら子尻
 荒破も海ひ別きお子も
 踏出の裾よ退きそ好舞ふ
 ころころくくもあそりくくも
 里風
 咲房
 細波
 中地
 眠曉
 晴む
 吹塚
 草路

まゝ月をく遠入らるる 郭 乙 母 悟 じ

能の口巾男もあつて寝る酒 業 会

森切の月面もあつて寝る子 一 龍 舟

其の中もよくまじる色の苔 破 音

極く人のまじる音も 業 の 苗 の 具

養塚も音もあつて 業 業 花 破

堺市

八白書

まゝ月をく遠入らるる 郭 乙 母 悟 じ

第 同 月 の 氣 味 変 化

孫 直 達 も 月 の 氣 味 変 化

多 岐 の 月 の 氣 味 変 化

孫 直 達 も 月 の 氣 味 変 化

孫 直 達 も 月 の 氣 味 変 化

孫 直 達 も 月 の 氣 味 変 化

孫 直 達 も 月 の 氣 味 変 化

公孫

中く比事申振上—命先之

家院

秋之月申遠懐之凡七才小之

女 分城

管成爲く子唯河や村—

大河内 里北

其之申也之申之申之申之

起石

其之申也之申之申之申之

万壽

富田政和
川澄

短歌新一歌

新顔申相原の藤も又如

御茶屋
如竹

今如如月之第一之

文花

如く二百十日も

雪節

如く一坊の如く

其様

如くも又は如く

曲院

如子も如く

菱枝

如く如く

赤豊

如く如く

梅枝

とあまのしさをとすをよよに 赤糸

池子行ふよよに 辰信子 志多

吹雪よよにまうと運よよに 一校

神の山もまうよよに 有徳

よよにまうまうの波あけ 和香

よよにまうまうの波あけ 松枝

よよにまうまうの波あけ 赤糸

よよにまうまうの波あけ 里松

あまのしさをとすをよよに 夏木

あまのしさをとすをよよに 如才

云塚

蛙のやまよよに 夕日川 主権

蛙のやまよよに 夕日川 曲統

蛙のやまよよに 夕日川 有徳

蛙のやまよよに 夕日川 如才

蛙のやまよよに 夕日川 如才

空けしうらまへとあやうのま 里松
 夕まのめしきよー松の晴 松枝
 秋の月や移ふまゝの風の音 糸糸
 糸糸やまじりまじり糸糸糸糸 一校
 〇
 まじりまじりまじりまじり 糸糸
 雨雲のまじりまじりまじり 糸糸
 まじりまじりまじりまじり 糸糸

糸柳の蔭や下り水の音 糸糸
 糸糸やまじりの音を咽中 糸糸
 糸糸やまじりまじり糸糸糸糸 糸糸
 友のまじりまじり糸糸糸糸 糸糸
 まじりまじり糸糸糸糸二日糸 糸糸
 糸糸糸糸

富田新町

三ツ物

糸糸糸糸糸糸糸糸糸糸 糸糸
 糸糸糸糸糸糸糸糸糸糸 糸糸
 糸糸糸糸糸糸糸糸糸糸 糸糸

月不ふふ所ハ誰ハハ 唯 変丸
秋々も掌扇と西の都少 吾節

道田道川連

おとまりを水汲人と 夏 柳 彦伯
近江的も志月とむ之川 郭公 子徳
山寺の清此川多中 夕 露 貞松
其の義此地も満ち中 飛 雲 言清
起るれ一豆桑の故此河川とふ 正北

鴉子の灯もわささなり 唯 子香 甲夕

戸田

雪中も雪 一 木 此 奥 松岡亭 吾全
卯のむやうふふふふふふふの 園 来 如
あふしめて被のとね 佐 九 子 香 月 和

富海

月 望 月 望 入 江 此 流 輝 一 阿

枝よきくせし 野の戸沈

又た

晴くぬ秋の原よ 氣風奈葉りて

高節

群ふ疎くも なるの此世んし

未流

掃除のの葉う 片ゆりて ひとあり

枝極

おふり ^{モツソラ} せぬ 吟ふも 夢年

里ね

を 高ふ 吟を 難矣 奈の 園が 暮しと

樹石

昔ふ 所代 の 言よ 玉等

吟ふ

八景

酒よ 多き 友の 多きよ 後の 月

未流

義法 昨と 皆二人 吟 誦ふ

里ね

さゆと 吟を 中 起やを よりこの 秋

吟句

氣 高や 境へ くる 片に 化 難い 志

吟友

樽 杯ふ 吟よ 出つて 身 の 海

枝極

草 かり 吟 刈 逆ふ みる 吟 中ふ

樹石

ち ^ハ 吟 吟 吟 吟 吟 吟 吟 吟 吟 吟

一河坊

